

2018年
8月号
NO.0072

カトリック笹丘教会
教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

暑中お見舞い申し上げます



主任司祭 遠山満

皆様、暑中お見舞い申し上げます。厳しい暑さが続いておりますが、皆様、如何お過ごしでしょうか。世界中で、異様な暑さが続き、この暑さにどのように対処して行けば良いのか、皆さんも対応に苦慮されていらっしゃるのではないかと思います。この暑さは、私たちにとって意味の分からない苦しみではないでしょうか。

六月に放映された、世界ふしぎ発見というテレビ番組の中で、北アフリカの「アファールトライアングル」という酷暑の場所が取り上げられておりましたが、その番組の放映は、今年暑い夏を体験するであろう私たちに、「世界中には、もっと暑い場所があるのだから、私たちも頑張ろう」と、私たちに励ますが為に作られたのだろうか、今にして思えば、そのような思いも心の中に湧いてくるような内容でした。ただ、あの時の放映を思い出しても、やはり暑いものは暑いとしか言いようのない毎日です。

ところで、皆さんは、「アファールトライアングル」より、もっと暑い状態があることをご存知でしょうか。それは、「煉獄」です。煉獄は、私たちの多くが、死後、永遠の命に入る前に辿ることになる、清めの段階です。煉獄には、清めの炎があります。その清めの時は、一時的ではありますが暑い状態と言われます。なぜなら、炎で焼かれているからです。煉獄にいらっしゃる靈魂を亡にするなら、私たちは、その人たちを助けずにはられません。なぜなら、炎の中で苦しんでいらっしゃるからです。

今、私達は、お盆を迎えている日本中の人たちと共に、亡くなった人たち、特に煉獄で清めの時を過ごしている人たちの為に祈りましょう。アウシュビッツから生還した精神科医ピクター・フランクルが、自分の苦しみを捧げて、意味不明の苦しみに意味づけを行い、苦しみを乗り越えて行ったように、私達も、私達が体験する毎日の暑さを、煉獄の靈魂の為に捧げながら、この酷暑の日々を乗り越えて参りましょう。

「主よ、今日のこの暑さを受け入れ、感謝します。どうぞ、その代わりに、煉獄にいらっしゃる靈魂の清めの時が、少しでも短縮されますよう、お取り計らいください。この状況を通して、あなたの栄光が現れますように。アーメン」。

カトリック笹丘教会 役員会議事録

開催日時：2018年7月21日（土）16：00～18：00

開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、辻部、前田（美）、牧山、松尾、前田（史）、菅、畠山、川原（圭）

司会：川原

書記：牧山

†主の祈り

1. アウグスチノ祭について

(1) 招待状 7/29までに発送する

(2) プログラム

- ・ 8/25（土）午後6時ミサ（通常7時を変更する） 宮原良治司教様司式
- ・ 宮原司教様 司教着座10周年お祝い
霊的花束と、信者会からお祝い金を渡す。
- ・ 司会を若者（古川さん他）にお願いする。

(3) 食事メニュー

バーベキュー、唐揚げ、枝豆、おにぎり、ソーメン、ケーキ、お茶、
ジュース、かき氷、ビール（100円）、酎ハイ（50円）

(4) 参加申し込み及び参加費

申込用紙に班を記入する欄を設け、班の一覧表を置いておき、それを見て記入してもらう。参加費は大学生以上500円、高校生以下は無料とする。

(5) 会場

信徒会館ホールをメインに、外でも飲食できるようにパラソルや簡易テントを出す。バーベキュー焼き場と飲料水売り場は昨年同様外に設ける。

(6) その他

- ・ 班ごとにゲームを行うなど、班を意識してもらえるような企画を考える。
- ・ 子供たちのために花火を準備

2. 敬老会について

- ・ 9/23（日）10時のミサ後
- ・ 招待状担当（畠山さん）

- ・食事メニューは昨年同様。お祝いは参加者にも欠席者にも、カルメル会のお菓子を準備する。紅白饅頭は食事メニューに入れるよう検討する。

3. 平戸巡礼について

- ・ 10/13 (土)
- ・ コースは田平教会 (9 時頃) → 平戸教会 → (食事) → 山田教会 → 紐差教会
- ・ 参加費 2 千円。定員 40 名とし、申込多数の場合は抽選とする旨を、申し込み用紙に入れる。(前田美)

4. 今年度目標の取り組み状況について

なかなか進まないが、常日頃から意識しておきたい。

5. その他

(1) 小教区の現状と課題について

明日信徒協の集まりがあるが、笹丘小教区の現状と課題として、以下のことを報告する。

- ・ 信者会に規約がない
- ・ 役員の成り手がいない
- ・ 主日のミサの時間変更 (日曜 8 : 00 を 9 月から 7 : 30 に変更) を検討中
宣教司牧評議会について、宮原司教様の説明と質疑応答が、明日大名町教会で行われる。

(2) 募金・献金について

- ・ 西日本豪雨災害被災者支援のための募金箱を設置する。広島教区が自由に使えるようにするために、集まったお金の送金先はカリタスではなく広島教区とする。
- ・ 福岡教区一菜献金のための献金箱を設置する。

(3) 電力会社変更について

現在契約している九州電力の料金プランの説明を受け、他社との比較検討を行ったが引き続き検討することとなった。

次回役員会 8/18 (土) 16 : 00

＋アヴェマリアの祈り

~~~ 信仰のルーツコーナー ~~~



* 先月号から引き続き故米田博一氏の連載です *

我が父 米田博一の信仰の歩みを辿る 第二回

故米田博一氏

米田博正

2 信仰の歩みと戦争、第2バチカン公会議

わたしの祖父母がピリオン神父から受洗した年、1931年は満州事変がおこった年でもあります。当時の日本はしだいに軍国主義が強くなっていき、父が3歳の時、日中戦争が勃発します。父は、尋常小学校から国民学校へと名称が変わった1941年（太平洋戦争開戦の年）、国民学校に一年生として入学します。祖父、忠一は天皇を守る近衛兵として徴兵されました。父の世代は銃後を守る少国民として、いわゆる「皇国史観」とアジアの方たちへの差別感情を学校教育において刷りこまれていきました。

このようなきな臭い時代の流れのなかで、1940年に宗教団体法が施行され、カトリック教会も「天主公教会」として政府の軍国主義政策に協力させられます。奈良教会は、1936年にパリミッション会からメリノール会に移管されていましたが、外国人宣教師は迫害を受け、司教は邦人司祭に限られていくようになりました。カトリック（普遍的なという意味）でありながら、普遍的な精神は失われナショナリズムが強められ、教会では戦意高揚をあおるような説教がなされていたことを伝え聞いています。

その後1945年、父が11歳の時に日本は敗戦を迎え、宗教団体法は廃止されます。この年は、日本のカトリック教会が、戦争ではなく、平和を祈るカトリック本来の精神に立ち返ることができた年であったといえると思います。

父はこのような戦中、戦後の、教会が国策に翻弄され混乱していた時期に、公教要理を学んでいきました。当時のカトリック教会ではまだラテン語でミサが行われ、プロテスタント教会のように一般信徒が個人で聖書を読むことは困難でした。父はそのような時代にあって熱心にラテン語の典礼を学び、侍者も上手にこなしていたようです。

そして1962年から65年にかけて、教会にとって、またおそらく父の人生においても、大きな転換点となる第2バチカン公会議が開催されました。父が30歳前後の頃でした。父は時折「昔の教会では…」というセリフを言っていたのですが、父にとっては、幼な心に慣れ親しんでいた荘厳な典礼を重視した教会から、「開かれた教会」へと変わっていったこんにちの教会の姿に、隔世の感があるようでした。父は晩年、デイサービスに通所するようになってからは、ご高齢の方が好まれる演歌ではなくグレゴリオ聖歌をラテン語で披露して場を盛り上げていたそうです。【裏面につづく】

3 福岡での信仰生活

1952年、父は奈良の高校を卒業し大阪の大学に進学した後、書道用品会社に就職しました。そして30歳代より、営業の関係で奈良から福岡に転居しました。はじめは中央区の大名町に住み、大名町教会のミサに通っていたと聞いています。また同じ頃、1960年代ですが、アウグスチノ会が福岡で宣教を開始されていました。父はその後、田島、友丘と住まいを変え、まだ献堂されて間もない東田島教会（現在の笹丘教会の前身）へと転籍しました。当時の主任司祭はオカナ神父様でした。

父には30歳代から40歳代にかけて仕事がうまくいかなかった時期があり、家庭的にも苦しかったのですが、その頃いらっしゃった、ハトリック神父様、マホニ神父様、ドワイヤ神父様といったアウグスチノ会の神父様方の祈りに、たいへん支えられていました。

教会の活動では、父は聖母マリアへの信心がたいへん強かったこともあり、レジオマリエの活動に熱心に取り組んでいました。わたしも幼い頃、神父様と父と一緒に、病床にある方のお見舞いによく連れて行ってもらっていた記憶があります。

仕事をリタイアしてからは、「聖霊による刷新祈りの集い」「聖ドミニコ信徒会」「グレゴリオ聖歌を歌う会」などの活動にも参加させていただいていました。また晩年には聖体奉仕者の資格もいただき、笹丘教会のミサでも、喜びのうちに配餐のつとめをさせていただいておりました。

くわえて、父は神父様方や神学生と関わらせていただくことを、生涯を通じて楽しみとしていました。アウグスチノ会の神父様方だけではなく、当時のサンスルピス大神学校の神学生、神父様方や、（1980年代まで片江にあった）御受難会「黙想の家」の神父様方をお招きして、食事とともにさせていただくことがよくありました。父はその時、福音書に登場する徴税人ザアカイのように、上機嫌で神父様方との酒宴を楽しんでいました。父の人生の中でも、とりわけ恵みを感じていたひとときではなかったかと思います。



【次回につづく】

お知らせコーナー

日曜日 8:00 のごミサは 7:30 に変更
(30分繰り上げ) します。
9月2日(日)より実施します。

1. 聖アウグスチノ祭が開かれます。

8月25日(土) ごミサ18時、ミサ後信徒会館でパーティ
参加ご予約の方は申し込み表にご記名ください。 〆切 8/19

2. 宮原良治司教様着座10年のお祝い「霊的花束」にご協力ください。

カードに記入して、備付の箱に入れてください。 〆切 8/19

3. 「敬老会」は9月23日(日)10時のミサ後信徒会館ホールで開かれます。

4. 平戸巡礼に行きませんか。

10月13日(土)に次の教会を訪問予定です。

* 田平教会、平戸教会、山田教会、紐差教会
詳細は後日案内します。

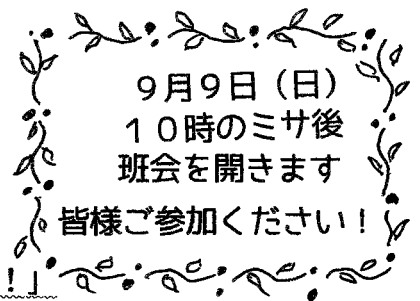
5. 今年度の目標に取り組んでいますか？

目標：「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

隣人と神さまの愛を分かち合いましょう

6. 募金にご協力を！！

「西日本豪雨災害被災者支援」のために募金をお願いします。



編集後記

先日、知人に誘われてフルートのコンサートに出かけた。映画音楽をアレンジした耳馴染みのある曲ばかりで気持ちのいい時間を過ごすことができた。演奏者の方が一番好きだという「すべての山に登れ」(Climb Every Mountain)の歌詞を添えてくれていて、あらためてその意味を味わうと、なんとも胸にしみるものだった。すべての山に登りなさい／高さも低きも脇道も小道も／すべての流れを渡りすべての虹を追いかけなさい／あなたの夢を見つけるまで／その夢はあなたが与えるすべての愛が必要です／・・・サウンド・オブ・ミュージックの中で修道院長が歌い、ラストでも流れる曲だが、人生の高きも低きもどんな小道を歩くときも、そこにいつも必ず神様が共にいてくださるのだよなあ・・・と思われたのは、若い頃にはなかったことであった。(FK)